

第1節 文化財の指定と調査・保護

1 指定文化財

県内の国及び県指定等の文化財は、次のとおりである。

第8-1表 新指定等文化財

区分	名称	所在地	所有者又は代表者	指定等年月日
国指定名勝	おくのほそ道の風景地【壺碑（つぼの石ぶみ）・興井・末の松山・籬が島】	多賀城市市川・多賀城市八幡・塩竈市新浜町	多賀城市・国・鹽竈神社	H26.10.6
国指定名勝	おくのほそ道の風景地【つゝじが岡及び天神の御社・木の下及び薬師堂】	仙台市宮城野区・仙台市若林区	仙台市国・県・個人	H27.3.10
重要伝統的建造物群保存地区	村田町村田伝統的建造物群保存地区	村田町村田	村田町・個人	H26.9.18
県指定文化財（無形民俗）	大沢田植踊	仙台市泉区七北田	保存会	H27.2.24
県指定文化財（建造物）	旧登米警察署庁舎附火の見櫓	登米市登米町	登米市	H27.2.24

第8-2表 文化財指定等件数（平成26年度末）

区分	種別	国指定	県指定	計	
有形文化財	建造物	20(3)	36	56	
	美術	絵画	2	14	16
		彫刻	8	27	35
	工芸品	工芸品	11	22	33
		書跡・典籍	5(2)	20	25
		古文書・古碑	1	2	3
		考古資料	8	9	17
歴史資料	3(1)	12	15		
無形文化財	工芸技術	1	2	3	
	その他		1	1	
民俗文化財	有形民俗文化財	1	4	5	
	無形民俗文化財	風俗慣習	4	9	13
		民俗芸能	3	34	37
	風俗慣習・民俗芸能		2	2	
記念物	史跡	34(1)	15	49	
	史跡・名勝	1		1	
	名勝	5(1)	2	7	
	天然記念物	28(1)	31	59	
合計		134(9)	240	374	
・選定文化財 (国選定) (県選定)					
保存技術	選定保存技術	1		1	
伝統的建造物群保存地区		1		1	
・記録作成等の措置を講ずべき文化財 (国選択) (県選択)					
無形民俗文化財	風俗慣習	4		4	
	民俗芸能	4		4	
・登録文化財 (国登録)					
有形文化財	建造物	104			
	美術工芸品	1			

注1：国指定の有形文化財(重要文化財)の中で特に価値の高いものを国宝、国指定の記念物(史跡・名勝・天然記念物)の中で特に重要なものを特別史跡・特別名勝・特別記念物に指定している。

注2：()内は、国宝・特別史跡・特別天然記念物の件数を内数で示している。

2 文化財の調査・保護

(1) 埋蔵文化財の保護及び発掘調査等

ア 保護体制の整備

県の埋蔵文化財保護体制を充実させるため、以下の会議により調整を図った。

(ア) 東日本大震災に伴う埋蔵文化財保護に関する会議

○文化庁主催

○平成26年6月25日・10月10日・12月15日・3月5日(計4回)

○場 所 宮城県・岩手県・福島県

○参加者 文化庁・宮城復興局・岩手復興局・福島復興局

宮城県・福島県・岩手県・仙台市

兵庫県・神戸市・奈良文化財研究所

(イ) 市町村文化財担当者会議

○平成26年6月11日

○場 所 東北歴史博物館

○参加者 各市町村文化財担当者

(ウ) 復興事業に伴う発掘調査にかかる連絡調整会議

○平成27年2月10日

○場 所 東北歴史博物館

○参加者 各市町村文化財担当者・文化庁・宮城復興局

イ 文化財保護管理指導事業

文化財保護地区指導員を県下市町村に各1人(仙台市4人、大崎市7人、加美町3人、栗原市10人、登米市9人、気仙沼市3人、石巻市7人、南三陸町2人)委嘱し、国指定の重要文化財(建造物)、史跡、名勝、天然記念物及び主たる埋蔵文化財包蔵地についてパトロールを実施したほか、文化財保護地区指導員ほかを対象とした以下の会議及び研修会を開催した。この事業は昭和49年度から国庫補助事業として実施しているものである。

(ア) 文化財保護地区指導員会議

○平成26年5月1日

○場 所 東北歴史博物館

○参加者 各市町村担当者及び文化財保護地区指導員

(イ) 市町村文化財担当者・文化財保護地区指導員研修講座

○月 日 平成26年11月5日

○会 場 東北歴史博物館

○研修内容 「よみがえった被災文化財」

講師 東北歴史博物館 小谷竜介氏

「女川獅子振りの復活と地域の復興」

講師 女川町町民課 平塚英一氏

東北歴史博物館の展示見学

○参加者 各市町村担当者、文化財保護地区指導員、文化財保護委員

ウ 基礎資料の整備

埋蔵文化財関係の基礎資料を整備し、その活用を図るため、遺跡台帳の整備充実を努めた。

エ 発掘調査

(ア) 平成26年度：埋蔵文化財発掘届等の件数

(第8-3表参照)

○調査のための発掘届(法92条第1項) 6件

○土木工事に伴う届(法93条第1項) 1,213件

○土木工事に伴う通知(法94条第1項) 355件

○遺跡発見の届(法96条第1項) 0件

○遺跡発見の通知(法97条第1項) 6件

○教育委員会の発掘調査(法99条第1項) 503件

合計 2,083件

(イ) 受託事業による調査(第8-4表参照)

(ウ) 執行委任事業による調査(第8-4表参照)

- (エ) 国庫補助事業による詳細分布調査（県教委が主体もしくは担当した調査）（第8-4表参照）
 (オ) 復興交付金による分布・試掘調査（第8-4表参照）
 (カ) その他の調査（第8-4表参照）

第8-3表 埋蔵文化財発掘屈等件数

No.	市町村名	92条	93条	94条	96条	97条	99条	計
1	仙台市	4	518	67		2	73	664
2	白石市		22	2			14	38
3	角田市		12	4			9	25
4	七ヶ宿町		2					2
5	蔵王町		23	4		2	7	36
6	大河原町		10	2			4	16
7	村田町		4				1	5
8	柴田町		5	3			4	12
9	川崎町		1					1
10	丸森町		9	3			6	18
11	塩竈市		2	5				7
12	名取市		86	4			49	139
13	亘理町		12	4			6	22
14	山元町		26	3		1	21	51
15	岩沼市	1	13	12			19	45
16	松島町		7	4			2	13
17	多賀城市		101	15			22	138
18	七ヶ浜町		1	3			4	8
19	利府町		14	5			3	22
20	大和町		20	10			12	42
21	大郷町							
22	富谷町		4				2	6
23	大衡村		10	1			3	14
24	大崎市		69	47			62	178
25	加美町		7	10			11	28
26	色麻町		1					1
27	涌谷町		2	3			3	8
28	美里町		8	2			5	15
29	栗原市	1	56	51			49	157
30	登米市		17	18			6	41
31	石巻市		67	18			24	109
32	東松島市		27	16			29	72
33	女川町		5	3		1	8	17
34	気仙沼市		39	22			35	96
35	南三陸町		13	14			9	36
	合計	6	1,213	355		6	503	2,083

第8-4表

平成26年度発掘調査遺跡一覧									
受託契約による調査									
No.	事業名	事業主	遺跡名	所在地	調査種別	発掘面積 (㎡)	調査期間	主な発見遺構	
1	三陸沿岸道路建設(復興) (多賀城IC八幡地区)	国土交通省東北地方整備局 仙台河川国道事務所	山王遺跡	多賀城市	確認調査 本発掘調査	790 410	4月7日～6月30日	調査担当	古代: 道路跡・掘立柱建物跡・竪穴住居跡・材木 堀跡など, 土師器・須恵器・石製品・木製品など
2	三陸沿岸道路建設(復興) (本吉・気仙沼地区)	国土交通省東北地方整備局 仙台河川国道事務所	卯名沢貝塚・卯 名沢古墳 小屋館城跡	気仙沼市	確認調査	155 150	7月28日～8月8日 11月17日～11月19日	調査担当	遺構・遺物なし 時期不明の溝跡など
3	JR常磐線移設(復興)	東日本旅客鉄道株式会社	新中永窪遺跡 熊の作遺跡	山元町	本発掘調査	2,900 1,530	4月7日～8月31日 12月1日～1月31日	調査担当	古代: 竪穴住居跡・掘立柱建物跡・窯跡・製鉄遺 構・土坑など, 土師器・須恵器・石製品・鉄製 品・木製品など
4	国道4号築館バイパス 建設	国土交通省東北地方整備局 仙台河川国道事務所	入の沢遺跡 御駒堂遺跡	栗原市	本発掘調査	6,000 3,533	4月21日～12月18日 7月7日～10月3日	調査担当	古墳時代: 竪穴住居跡・溝跡・材木堀など, 土師 器・銅製品・鉄製品・石製品など 古代: 竪穴住居跡など, 土師器・須恵器など 旧石器時代: 石器 縄文時代: 陥穴・遺物包含層など, 縄文土器など 古代: 竪穴住居跡など, 土師器・土製品など
執行委任による調査									
No.	事業名	事業主	遺跡名	所在地	調査種別	発掘面積 (㎡)	調査期間	主な発見遺構	
1	県営ほ場整備事業 田尻西部地区	宮城県 (北部地方振興事務所)	団子山西遺跡	大崎市	確認調査 本発掘調査	4,019	5月28日～12月8日	調査担当	古代: 道路跡・竪穴住居跡・掘立柱建物跡・井戸 跡・土坑・溝跡・河川跡など, 土師器・須恵器な ど
2	県道改良事業 越河角田線	宮城県 (大河原土木事務所)	入大遺跡	丸森町	本発掘調査	125	7月14日～8月25日	調査担当	縄文時代: 遺物包含層・土坑・ピット, 縄文土 器・石器
3	県道改良事業 泉塩釜線(復興)	宮城県 (仙台土木事務所)	市川橋遺跡	多賀城市	確認調査	600	11月4日～12月15日	調査担当	古代: 道路跡・掘立柱建物跡・竪穴住居跡・井戸 跡・区画溝・土坑など, 土師器・須恵器・瓦など
国庫補助による調査									
No.	事業名	事業主	遺跡名	所在地	調査種別	発掘面積 (㎡)	調査期間	主な発見遺構	
1	国道45号迂回路建設 (復興)	国土交通省東北地方整備局 仙台河川国道事務所	大久保貝塚	南三陸町	確認調査	397	6月16日～6月25日	調査担当	縄文時代: 貝層, 縄文土器・石器・骨角器・自然 遺物
復興交付金による調査									
No.	事業名	事業主	遺跡名	所在地	調査種別	発掘面積 (㎡)	調査期間	主な発見遺構	
1	防災集団移転促進事業 (復興)	女川町	荒井田貝塚	女川町	試掘	175	4月14日～4月25日	調査担当	縄文時代: 竪穴住居跡・遺物包含層・土坑・ピッ ト, 縄文土器・石器
2	県道改良(復興)	宮城県 (気仙沼土木事務所)	波伝谷遺跡ほか	南三陸町	試掘	454	6月30日～7月4日 8月18日～8月22日	調査担当	遺構・遺物なし
3	防災集団移転促進事業 (復興)	石巻市	立浜貝塚	石巻市	試掘	860	8月4日～8月28日	調査担当	縄文時代: 遺物包含層・土坑・ピット, 縄文土 器・石器
4	被災市街地復興土地区 画整理事業(復興)	女川町	崎山遺跡	女川町	試掘	370	9月1日～9月12日	調査担当	縄文時代: 遺物包含層・土坑・ピット, 縄文土 器・石器
5	防災集団移転促進事業 (復興)	女川町	横浦館跡	女川町	試掘	395	2月2日～2月13日	調査担当	遺構・遺物なし
その他の調査(市町村協力)									
No.	事業名	事業主	遺跡名	所在地	調査種別	発掘面積 (㎡)	調査期間	主な発見遺構	
1	防災集団移転促進事業 (復興)	気仙沼市	台の下貝塚	気仙沼市	本発掘調査	234	4月7日～7月24日	調査協力	縄文時代: 遺物包含層・貝層・土坑墓・ピットな ど, 縄文土器・石器・骨角製品・自然遺物など
2	個人住宅(復興)	気仙沼市	猿喰東館跡	気仙沼市	本発掘調査	1,536	4月7日～6月2日	調査協力	中世: 堀跡・土塁・柱穴・土坑・通路状遺構な ど, 陶磁器・銭貨・鉄製品など
3	被災市街地復興土地区 画整理事業(復興)	女川町	内山遺跡	女川町	本発掘調査	4,400	4月14日～7月18日	調査協力	縄文時代: 掘立柱建物跡・遺物包含層・土坑・ ピットなど, 縄文土器・石器など
4	土砂採取	企業	音無日遺跡	川崎町	確認調査	290	4月15日	調査協力	遺構・遺物なし
5	災害公営住宅整備事業 (復興)	気仙沼市	田屋館跡	気仙沼市	確認調査	230	4月21日～4月30日	調査協力	遺構・遺物なし

No.	事業名	事業主	遺跡名	所在地	調査種別	発掘面積 (m ²)	調査期間	主な発見遺構
6	被災市街地復興土地 区画整理事業（復興）	多賀城市	八幡沖遺跡	多賀城市	本発掘調査	3,600	5月8日～10月11日	調査協力 古代：溝跡・土坑・ピットなど、土師器・須恵器・瓦など 中近世：区画溝跡・柱跡・土坑など、陶磁器・漆器・木製品・銭貨など
7	津波復興拠点整備事業 （復興）	山元町	山下館跡	山元町	本発掘調査	3,500	5月12日～7月11日	調査協力 中世：堀跡・土塁・柱穴・土坑など、陶磁器・石製品など
8	宅地造成	丸森町	雁歌遺跡	丸森町	確認調査	56	5月13日	調査協力 遺構・遺物なし
9	ほ場整備（復興）	宮城県 （気仙沼地方振興事務所）	緑館遺跡ほか	気仙沼市	確認調査	363	5月19日～5月22日	調査協力 時期不明のピット、土師器・石器
10	町道改良	丸森町	和田遺跡	丸森町	確認調査	75	5月20日	調査協力 遺構・遺物なし
11	個人住宅	個人	亀岡遺跡	大衡村	確認調査	16	5月22日	調査協力 遺構・遺物なし
12	ほ場整備（復興）	宮城県 （気仙沼地方振興事務所）	大畑遺跡ほか	南三陸町	確認調査	1,042	6月2日～6月13日	調査協力 縄文時代：ピット、縄文土器
13	ほ場整備（復興）	宮城県 （気仙沼地方振興事務所）	在郷遺跡ほか	南三陸町	確認調査	677	7月14日～7月18日	調査協力 縄文時代：ピット、縄文土器
14	ほ場整備（復興）	宮城県 （気仙沼地方振興事務所）	大沼遺跡	南三陸町	確認調査	411	7月22日～7月29日	調査協力 縄文時代：縄文土器・石器など
15	防災集団移転促進事業 （復興）	女川町	荒井田貝塚	女川町	本発掘調査	260	7月28日～8月18日	調査協力 縄文時代：遺物包含層、縄文土器、石器など
16	防災集団移転促進事業・災害公営住宅整備 事業（復興）	山元町	合戦原遺跡	山元町	本発掘調査	8,641	8月1日～3月27日	調査協力 古代：横穴墓・製鉄炉・木炭窯・焼成遺構・土坑・ピットなど、土師器・須恵器・玉類・鉄滓など
17	防災集団移転促進事業 （復興）	気仙沼市	橋館跡	気仙沼市	本発掘調査	5,697	9月1日～12月25日	調査協力 縄文時代：遺物包含層・貯蔵穴・土坑・ピットなど、縄文土器・石器など 近世：掘立柱建物跡・竪穴遺構など、陶磁器・鉄製品・銭貨など
18	被災市街地復興土地 区画整理事業（復興）	南三陸町	新井田館跡	南三陸町	本発掘調査	20,000	9月16日～11月7日	調査協力 中世：堀堀、遺物なし
19	防災集団移転促進事業 （復興）	石巻市	立浜貝塚	石巻市	本発掘調査	3,178	10月6日～1月16日	調査協力 縄文時代：遺物包含層・配石遺構・土坑・ピットなど、縄文土器・石器など
20	個人住宅	個人	金ヶ瀬遺跡	大河原町	確認調査	10	10月16日	調査協力 遺構・遺物なし
21	防災集団移転促進事業 （復興）	石巻市	羽黒下遺跡	石巻市	本発掘調査	7,850	11月4日～3月27日	調査協力 縄文時代：遺物包含層・溝跡・土坑・ピットなど、縄文土器・石器など
22	集合住宅	個人	裨田前遺跡	大河原町	確認調査	65	11月6日	調査協力 遺構・遺物なし
23	園路整備	柴田町	船岡館跡	柴田町	確認調査	17	11月12日	調査協力 遺構・遺物なし
24	集合住宅	個人	日向館跡	涌谷町	確認調査	116	11月25日～11月27日	調査協力 古代：掘立柱建物跡・塀跡など、土師器・瓦など
25	休憩施設	柴田町	船岡館跡	柴田町	確認調査	37	12月9日	調査協力 遺構・遺物なし
26	ほ場整備（復興）	宮城県 （気仙沼地方振興事務所）	杉の下貝塚ほか	気仙沼市	確認調査	1,200	12月15日～2月3日	調査協力 縄文時代：遺物包含層・土坑・ピットなど、縄文土器・石器など 古代：竪穴住居跡・製塩炉など、土師器など
27	県道改良	宮城県 （大河原土木事務所）	新開遺跡	大河原町	確認調査	35	1月7日	調査協力 遺構・遺物なし
28	宅地造成	個人	亀岡遺跡	大衡村	確認調査	71	1月16日	調査協力 遺構・遺物なし
29	個人住宅	個人	三代河原遺跡	丸森町	確認調査	108	1月20日	調査協力 遺構・遺物なし
30	集合住宅	個人	船岡館跡	柴田町	確認調査	62	2月3日	調査協力 遺構・遺物なし
31	メガソーラー建設	企業	座府C遺跡	大衡村	確認調査	546	2月4日	調査協力 遺構・遺物なし
32	阿武隈川堤防築堤	国土交通省東北地方整備局 仙台河川国道事務所	台町遺跡ほか	丸森町	確認調査	360	2月16日～2月24日	調査協力 古代：土坑・河川跡、遺物なし
33	個人住宅	個人	上川名貝塚	柴田町	確認調査	16	3月16日	調査協力 時期不明の貝層、縄文土器

オ 報告書の刊行

刊行年月日	報告書名
2015 （平成26年12月）	宮城県文化財調査報告書第235集 「山王遺跡VI—多賀前地区第4次発掘調査報告書—」
2015 （平成27年3月）	宮城県文化財調査報告書第236集 「東日本大震災復興事業関連遺跡調査報告Ⅱ」
2015 （平成27年3月）	宮城県文化財調査報告書第237集 「入大遺跡」

(2) 文化財の保護

ア 史跡名勝天然記念物に対する現状変更件数については、次表のとおりである。(第8-5表参照)

イ 銃砲刀剣類の審査と登録

登録審査会を6回開催し、美術的価値のある銃砲刀剣類の登録を行った。(第8-6表参照)

ウ 第56回北海道・東北ブロック民俗芸能大会

平成26年10月26日(日)に北海道小樽市を会場に開催され、本県から1団体(女川法印神楽(石巻市))が出演した。

第8-5表 史跡・名勝等の現状変更件数

種 別	名 称	年 度										
		16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
特 別 名 勝	松 島	118	88	88	139	135	198	155	235	369	262	315
特 別 史 跡	多賀城跡附寺跡	9	9	10	18	11	8	13	6	4	4	5
そ の 他		35	42	18	38	31	30	22	41	46	21	20
計		162	139	116	195	177	236	193	281	419	287	340

第8-6表 銃砲刀剣類の登録件数

種 類	た ち	刀	わきざし	短 刀	剣	や り	なぎなた	その他	火なわ式銃砲	火打石式銃砲	管打式銃砲	計
件 数	5	51	65	33	0	10	4	0	10	0	1	179

3 文化財保護事業に対する助成等(震災関係を除く。)

(1) 国庫補助事業

本年度国庫補助事業として実施したものは次のとおりである。

第8-7表 平成26年度国庫補助事業 (単位:千円)

事 業 名	事 業 者	総事業費	内 訳			
			国庫補助金	県補助金	市町村費	所有者負担金等
近代和風建築総合調査	宮城県	3,115	1,550			1,565
瑞巖寺本堂ほか7棟 建造物保存修理	瑞巖寺	300,000	180,000	17,775	5,000	97,225
鹽竈神社 建造物保存修理	鹽竈神社	108,242	59,532	12,177	5,000	31,533
大崎八幡宮 建造物防災施設	大崎八幡宮	4,807	2,403	-	-	2,404
朴沢学園裁縫教育資料 史料調査	仙台市	2,146	1,073			1,073
仙台城跡 史跡等・登録記念物・歴史の道保存整備	仙台市	115,025	57,512	-	-	57,513
旧有備館及び庭園 史跡等・登録記念物・歴史の道保存整備	大崎市	12,080	6,040	1,065	-	4,975
多賀城跡附寺跡 史跡等・登録記念物・歴史の道保存整備	宮城県	8,514	4,257	-	-	4,257
陸奥国分寺 史跡等・登録記念物・歴史の道保存整備(H27へ繰越)	仙台市	24,514	12,257	-	-	12,257
市内遺跡発掘調査等	仙台市	16,498	8,249	-	-	8,249
市内遺跡発掘調査等	多賀城市	21,216	10,608	-	-	10,608
市内遺跡発掘調査等	大崎市	3,910	1,955	-	-	1,955
市内遺跡発掘調査等(H27へ繰越)	東松島市	8,000	4,000	-	-	4,000
市内遺跡発掘調査等	角田市	2,000	1,000	-	-	1,000
市内遺跡発掘調査等	白石市	4,900	2,450	-	-	2,450
市内遺跡発掘調査等	名取市	2,850	1,425	-	-	1,425
市内遺跡発掘調査等	気仙沼市	1,115	557	-	-	558
市内遺跡発掘調査等	栗原市	3,000	1,500	-	-	1,500
町内遺跡発掘調査等(H27へ繰越)	亙理町	2,600	1,300	-	-	1,300
町内遺跡発掘調査等	加美町	2,000	1,000	-	-	1,000
町内遺跡発掘調査等	松島町	4,591	2,295	-	-	2,295
市内遺跡埋蔵文化財公開活用(H27へ繰越)	多賀城市	10,622	5,311	-	-	5,311
市内遺跡埋蔵文化財公開活用	仙台市	7,666	3,833	-	-	3,833
市内遺跡埋蔵文化財公開活用	東松島市	4,000	2,000	-	-	2,000
多賀城跡附寺跡指定文化財管理(国有文化財管理)	多賀城市	208	166	-	-	166
第61回日本伝統工芸展仙台展	日本伝統工芸品台展実行委員会	3,166	1,496	-	-	1,670

選定保存技術（石盤書）伝承	佐々木信平	1,223	1,106	-	-	117
多賀城跡附寺跡買上げ（直接買上げ）	多賀城市	250,000	200,000	8,000	-	47,000
仙台郡山官衙遺跡群買上げ（直接買上げ）	仙台市	113,334	90,667	-	-	22,667
陸奥国分寺跡群買上げ（先行取得償還）	仙台市	429,905	343,921	-	-	85,984
仙台郡山官衙遺跡群買上げ（先行取得償還）	仙台市	67,636	54,108	-	-	13,528
特別天然記念物カモシカ食害対策	宮城県	1,569	1,046	-	-	550
県内遺跡発掘調査等	宮城県	12,293	6,146	-	-	6,147
指定文化財管理	宮城県	5,604	2,802	-	-	2,802

(2) 特別天然記念物カモシカ保護対策事業

南奥羽山系カモシカ保護地域におけるカモシカの生息動向・生息環境・食害発生状況などのカモシカ保護対策に関する調査を実施した。

(3) 県費補助事業

本年度県費補助事業として実施したものは、次のとおりである。

第8-8表 平成26年度県費補助事業 (単位：千円)

補助事業名	補助金交付先	補助金額	備 考
建造物保存修理事業	賀茂神社 防災設備	199	補助率 50%
建造物保存修理事業	見龍院霊屋 防災設備	25	補助率 50%
史跡等保存整備事業	長久寺マルミガヤ 環境整備	526	補助率 50%
無形文化財・無形民俗文化財等保存事業	無形文化財保持者及び保持団体 新田柳心館 他 2個人	420	補助率 定額 (140千円)
	無形民俗文化財保存団体 湯元田植踊保存会 他 46団体	1,380	補助率 定額 (30千円)

4 災害復旧事業に対する助成等（震災関係）

(1) 国庫補助事業

国庫補助事業として実施したものは次のとおりである。

第8-9表 平成26年度災害復旧補助事業 (単位：千円)

事業名	事業者	総事業費	内 訳				
			国庫補助金	県補助金	震災復興基金	市町村費	所有者負担金等
洞口家住宅主屋他3棟 建造物保存修理（繰越）	個人	34,740	29,529	1,302	65	3,649	197
旧有壁宿本陣 史跡等・登録記念物・歴史の道保存整備	個人	5,507	4,680	206	77	310	233
仙台城跡 史跡等・登録記念物・歴史の道保存整備	仙台市	324,380	227,066	-	-	-	97,314
齋藤氏庭園 史跡等・登録記念物・歴史の道保存整備（繰越）	石巻市	107,000	74,900	-	-	-	32,100
歌津館崎の魚竜化石産地及び魚竜 史跡等・登録記念物・歴史の道保存整備（繰越）	南三陸町	56,502	39,551	-	-	-	16,951
角星酒造店舗及び酒造工場	個人	2,008	1,405	-	150	-	453

(2) 県費補助事業

県費補助事業として実施したものは、次のとおりである。

第8-10表 平成26年度災害復旧補助事業 (単位：千円)

事業名	事業者	総事業費	県補助金	震災復興基金	市町村費	所有者負担金等
華足寺客殿及び山門 保存修理	華足寺	7,349	3,673	459	1,836	1,378
天雄寺観音堂 保存修理	天雄寺	24,009	-	3,000	3,456	18,545
愛宕尊騎馬像・六地藏菩薩立像 保存修理	正圓寺	1,138	-	142	569	427
茂庭家霊屋 保存修理	個人・石雲寺	2,500	-	312	1250	938
遊佐家住宅 保存修理	個人	329	-	82	-	247

5 その他

(1) 宮城県地域文化遺産復興プロジェクト

東日本大震災により被災した無形の文化遺産等に対して、活動基盤の再構築を促し、文化遺産を活かして復興に資するとともに、その成果を多様な形で還元するため、記録作成、

普及啓発、後継者育成等の事業を実施した。

事業期間：平成26年4月1日～平成27年3月31日

実施主体：宮城県地域文化遺産復興プロジェクト実行委員会

事業額：20,434,088円(平成26年度)

事業内容

事業1： 地域の文化遺産記録作成、調査研究事業

- ①ヘリテージマネージャー養成事業

事業2： 地域の文化遺産普及啓発事業

- ①地域の芸能祭り開催事業
- ②伝統的工芸技術普及啓発事業
- ③宮城県伝統工芸体験教室事業

事業3： 地域の文化遺産継承事業

- ①正藍染後継者養成事業
- ②山元町無形民俗文化財継承事業

事業4： 地域の文化遺産情報発信事業

- ①伝統的工芸技術記録作成事業
- ②宮城県の地域文化財に関わる調査活用事業
- ③ミクロな地域文化遺産再発見事業
- ④吉田家文書整理・調査事業
- ⑤地域の文化遺産とまちづくり事業

(3) 文化財ドクター派遣事業

被災した建造物の状況調査や応急措置及び復旧に向けた技術的支援等を行うため、文化庁と財団法人日本建築学会が連携・協力し、現地に調査員（文化財ドクター）を派遣するため、県では関係市町村と連絡調整を図り、この事業の下で被災建造物の復旧支援を行った。

(4) 被災ミュージアム再興事業

東日本大震災により被災した歴史博物館・美術館等が保有する、または寄託を受けた資料の修理、整理・データベース化、収蔵施設の整備や環境保全、展示公開等をおこない、博物館機能の再興を図るもの。文化庁の補助事業で、平成24年度から5ヶ年の計画で進められている。事業費の1/2が国庫補助金、残額は震災復興特別交付金でまかなわれる。本県では、文化庁の事業採択を受け、平成24年度から本事業に取り組んでいる。

事業期間	平成24年7月1日～平成28年
事業額	421,994,976円（平成26年度）

(2) 文化財レスキュー事業

東日本大震災により被災した文化財等（絵画、彫刻、古文書、考古資料など）を緊急に保全するとともに、貴重な文化財の廃棄・散逸を防止するため、平成23年4月に「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）」（実施主体：東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会（事務局：東京文化財研究所））が立ち上げられ、行政機関や研究機関、学会などの連携・協力の下に、各地の多数の被災文化財等を救出して応急処置を施し、博物館などで一時保管が行なわれた。その後、10月には宮城県教育委員会、東北歴史博物館などが中心となって「宮城県被災文化財等保全連絡会議」を設置し、救援委員会とも連携・協力してレスキュー活動を進め、被災文化財の保護・保全に努めてきた。

○文化財レスキュー事業実績（平成26年3月現在）

64箇所、約24,000件
 石巻文化センター収蔵資料・毛利コレクション等
 東松島市埋蔵文化財収蔵庫の資料等 数千点以上
 気仙沼市唐桑漁村センター民俗資料・生物標本等
 約400点

事業概要
 第8-11表

対象ミュージアム	事業内容	事業費
石巻文化センター	資料保存修復・再整理・仮保管	129,544,851
気仙沼市教育委員会	資料整理データベース化・収蔵環境整備	6,064,714
志津川自然環境活用センター	データベース復旧・収蔵展示復旧	3,641,008
宮城県美術館	整理・収蔵庫整備・環境整備	2,520,268
仙台市博物館	修復・再整理・収蔵環境調査	19,354,791
仙台市教育委員会	修復	4,011,641
東北学院大学博物館	データベース	3,699,925
東北歴史博物館	修理・再整理・保全・保管・再配架	56,519,570
多賀城市埋蔵文化財センター	修理	15,175,140
奥松島縄文村歴史資料館	修理・データベース	10,484,000
村田町歴史みらい館	データベース	84,834,460
亘理町立郷土資料館	資料整理・修理	17,094,412
岩沼市ふるさと資料室	修理・データベース・保管施設設置	6,027,631
涌谷町立史料館	資料保全・収蔵施設設置	3,099,993
大崎市松山ふるさと歴史館	修理	20,263,500
歴史博物館青葉城資料展示館	修理	8,291,160

第2節 東北歴史博物館

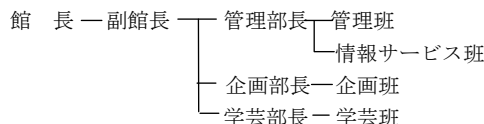
1 概要

東北歴史博物館は、宮城の地を拠点に東北全体の歴史及び文化を総合的にとらえ、その特色を世界に発信することを目的とした人文系博物館であり、誰もが気軽に学ぶことができる施設である。

企画展示、教育普及、調査研究及び歴史資料収集管理などの主要事業を積極的に行なった。

2 組織と予算

(1) 組織



(2) 予算

(決算)	
項目	金額(千円)
管理経費	217,995
企画展示費	45,536
教育普及費	2,249
調査研究費	1,002
資料管理費	3,085
合計	269,867

3 事業

(1) 企画展示事業

ア 常設展示

総合展示室において、約3万年前の後期旧石器時代から1965(昭和40)年頃までの東北地方全体の歴史及び文化について、庶民の視点を重視しながらそれぞれの時代を特色づけるテーマを取り上げた課題展示を行っている。重要文化財を含む実物資料約1,400点の展示及び当時の様子を復元したジオラマ、イラストや地図・写真を使ったパネル、レーザーディスク等の映像装置、解説文パネルを適宜配置してわかりやすい展示を目指している。

テーマ展示室において、展示室1で「杉山コレクション—埴輪—」「創造と復興のために—宮城の復興発掘調査—」よみがえった被災文化財—被災した芸能用具とその再生—」「重要有形民俗文化財福應寺毘沙門堂奉納養蚕信仰絵馬」「修復された被災文化財—色麻古墳群—」を、展示室2で「柄鏡の美」「骨角器の美」を展示した。また、展示室3では「仙台藩の工芸—刀剣と甲冑—」をはじめ8回の展示替えを行なった。

イ 特別展示

・特別展「日本発掘—発掘された日本列島2014—」

会期：平成26年5月31日～7月9日(34日間)

関連企画：

a, 記念講演会

「日本発掘展の見どころについて」

講師 文化庁記念物課 国武 貞克 氏

期日 平成26年6月15日

b, 展示解説 全5回

観覧者数：9,839人

・特別展「家電の時代」

会期：平成26年7月26日～9月28日(57日間)

関連企画：

a, 展示解説 全6回

b, 小学生向け展示解説「まだ間に合う!!家電で自由研究」

観覧者数：18,649人

・東日本大震災復興祈念特別展

「みちのくの観音さま一人に寄り添うみほとけ—」

会期：平成27年1月24日～3月12日(41日間)

関連企画：

a, 特別展講座 全6回

「観音講と安産への祈り」ほか

講師 福島県立博物館 内山大介 氏ほか

期日 平成27年1月24日ほか

b, 展示解説 全18回

観覧者数：10,799人

(2) 教育普及事業

ア こども歴史館の運営

利用者数 27,251人(小・中学校・高校の利用数 延べ218校)

体験企画(解説員主催)：

「折り紙でかぶと・あやめ・こいのぼりを作ろう！」

「ぺたぺた作ろう!ばたばたであそぼう！」

「お正月遊び2015 ～お正月遊びのメエ～じん♪～」

イ 図書情報室の運営 利用者数 3,838人

ウ 今野家住宅の運営 利用者数 26,027人

エ 講座等の行事

行事名	回数	参加数(人)	備考
博物館講座	23	1,471	古文書、史料講読、民俗芸能、体験考古学、れきはく講座等
体験教室	11	162	トンボ玉、ミニ屏風、拓本等
多賀城跡巡り	13	122	10回(5月～10月)、番外2回
民話を聞く会	6	206	多賀城民話の会、利府民話の会、秋保語りの会
体験イベント	3	6,384	春・秋・冬の年3回開催

オ 平成26年度文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業

I. 「地域の民話伝承者とともに、こどもたちが民話を学ぶ事業」 総参加者数 521名

① 民話にふれよう—いろいろばたでの民話—

期日 平成26年10月5日

話者 多賀城民話の会会員

秋保語りの会会員

利府民話の会会員

② 民話を調べて話してみよう

期日 平成26年10月26日

11月2日・9日・16日

講師 利府民話の会会員

③ 民話について考えよう

期日 平成27年1月17日

内容 発表会「こどもが語る民話にふれる」

講演会

「民話・かげの主人公「尻」について」

II. 「館利用の学校団体向け民話授業」

総参加者数 1,057名

① 博物館民話授業

期 日 平成26年11月12日

話 者 多賀城民話の会会員

② 出前民話授業

期 日 平成26年9月29日～11月28日 全13回

講 師 多賀城民話の会会員

III. 「地域の歴史、文化財保護活動をこどもたちが学ぶ事業」

総参加者数 450名

① タイムスリップ！縄文体験教室

期 日 平成26年8月5日～平成27年1月18日 全6回

② 発掘体験教室 おでかけ 発掘キャラバン

期 日 平成26年9月1日～平成27年3月11日 全5回

カ 広報と刊行物

『東北歴史博物館 平成25年度年報』

『東北歴史博物館研究紀要16』

『展示図録 家電の時代』

『催事カレンダー(4月～7月, 8月～11月, 12月～3月)』

(3) 調査研究事業

東北地方の歴史・文化に関連する考古資料・民俗資料・文書資料・美術工芸資料及び建造物資料について調査研究を行い、その成果を研究紀要・展示解説書等の刊行物を通じて公表した。

ア 考古資料の調査研究

文化財保護課から大崎市北小松遺跡出土資料など 569 箱と関連する図面・台帳類・写真データなどが移管され、その登録を行った。

楠本コレクションの骨角器、土製品、石器・石製品の整理作業を進め、南境貝塚出土骨角器 448 点について、『研究紀要』第 16 号で報告した。

大崎市岩出山町根岸遺跡出土藍胎漆器について、弘前大学、東北大学総合博物館との共同研究を行い、『研究紀要』第 16 号で報告した。

また、仙台市在住の榎戸由樹氏より埴輪や縄文土器等計 18 点を寄託され、榎戸コレクションとして収蔵した。

イ 民俗資料の調査研究

宮城県及び東北地方の民俗資料を調査し、展示に活用できるように、独立行政法人産業総合研究所東北センターより移管された旧工芸指導所関係資料について整理作業を行った。

東日本大震災後の民俗調査事業として、「三陸沿岸の漁村と漁業習俗」調査の調査地を中心に、石巻市雄勝町、女川町竹浦、南三陸町戸倉波伝谷、陸前高田市小友町を対象に調査を実施した。

民俗誌作成事業（東北学院大学との連携）として引き続き大崎市三本木新沼地区の調査を実施した。

宮城県地域文化遺産復興プロジェクト事業として、民俗芸能上演会(獅子芸能)を実施、関連して、テーマ展示室において「よみがえった被災文化財～民俗芸能用具の被災とその再生」を開催し、パンフレット「東日本大震災と民俗芸能」を刊行した。

ウ 歴史資料の調査研究

館蔵資料の資料保存と公開促進の目的で、「保呂羽村役場文書」のマイクロフィルム化を行った。また、マイクロフィルム資料のうち、佐々木家文書・奥山家文書（ともに加美町）等のデータベース化を行い、ホームページ上で公開した。

文化財レスキュー事業の一環として、石巻文化センター資料群について保存環境の整備を行った。また、津波被害を受けた石巻市寿福寺文書について、修理・保全処置（継続中）を行った。その他、昨年度までに修理等を完了した石巻市阿部家資料、南三陸町松笠屋敷（ひころの里）資料について返納作業を行った。

宮城県の地域文化財に関わる調査・活用事業として、仙台塩釜地区のうち、東園寺（塩竈市）・満勝寺（仙台市）・善応寺（仙台市）などの調査を行い、資料の写真撮影等を実施した。

仙台藩大肝煎吉田家文書に関わる整理・調査事業として、本年度から文化庁の支援を得て開始した。近世・近代の整理状況に関する情報を慎重に記録しながら、整理・調査作業を行い、仙台藩研究や地域研究に資することを目的としている。

エ 美術工芸資料の調査研究

館蔵近世絵画のうち文人画、工芸資料のうち杉山コレクション刀装具について調査研究を進め、その成果の一部をテーマ展示で公開した。

仏教文化及び美術に関する調査研究として、宮城県内、福島県内、秋田県内及び岩手県内の信仰拠点に伝わる資料の調査及びデータの整備を進めた。その成果の一部を本年度の特別展で公開した。

東北の近世絵画に関する調査研究として、城下町を描いた絵図及び名所絵等について宮城県内を中心とした東北地方及び関東地方に伝わる資料の調査を実施し、データの整理を進めた。その成果の一部を今年度のテーマ展示及び特別展示、講座で公開した。

オ 建造物資料の調査研究

古建築の活用に関する調査研究及び管理運営調査として、当館今野家住宅の修復工事の参考とするため、県内各所の被害状況とその修復の方法及び一般開放等に向けた取組や管理運営の現状と課題について、大崎市の旧有備館および庭園をはじめ南三陸町・蔵王町などの現地調査を行った。

宮城県近代和風建築総合調査として、宮城県教育庁文化財保護課より依頼を受け、標記調査事業に調査員として参加した。近代に建設された建造物で、主に伝統の様式や技法で建てられたものについて、所在確認と価値評価を行い、文化財としての保存措置をとるための基礎資料とすることを目的に、市町村による予備調査の補足として県内の遺構を悉皆的に調査する1次調査と、主要遺構についてより詳細に調査する2次調査を実施した。

カ 保存科学の調査研究

仮設収蔵施設における環境調査として、被災資料の一時保管施設として使用されている旧学校やプレハブなど文化財収蔵施設以外の施設における保存環境の安定化の方策を検討した。また、津波の被害を受けた資料からの発生物質に関する調査として、水損被災紙資料から発せられる異臭について、資料への影響、原因、対策等についても検討している。

出土金属製品付着赤色物質及び繊維物質の調査として、宮城県栗原市入の沢遺跡出土の金属製品を対象に、銅鏡および土に付着していた赤色物質の蛍光X線分析、X線回折分析、繊維状物質のデジタルマイクロスコープによる形状調査、赤外分光分析等による調査を行った。

キ 歴史的災害展示研究

東日本大震災を経験した宮城県立の博物館として、災害の展示についての県民をはじめとする来館者からのニーズが高まることが予想されることから今年度から開始し、4回の研究会を開催した(①「公開シンポジウム「災害と展示」から考えてみる」②「災害展示の実際」③「リアスアーク美術館常設展示「東日本大震災の記録と津波の災害史」見学」④「大地

動乱の時代—東日本大震災と貞観地震」)。

(4) 資料管理事業

歴史資料・文書資料・民俗資料等を収集し保存及び管理を行い、展示・閲覧・貸出・調査研究などの活用資する。

ア 実物資料

考古・民俗・文書・美術工芸・建築・歴史の各資料分野にわたって、約10万件を超える資料を収蔵している。

資料の館外貸出は34件1,032点であった。寄贈資料は、歴史資料(エジソン蓄音機、家電製品等)、民俗資料(工芸指導所関係資料、唐箕、藍染め関係資料等)、考古資料(縄文土器等)等988点であった。

イ 写真資料

収蔵実物資料を撮影したもの等を中心とした写真資料について、フィルムやプリントの形態で約7万件を収蔵している。今年度の写真資料等の貸出及び再掲載申込は、94件295点であった。

ウ 図書資料

当館が所蔵している図書資料の総数は約11万冊で、そのうち約8,000冊を図書情報室で開架し、来館者が自由に閲覧できるようにしている。また、収蔵図書資料の目録は、当館ホームページで公開している。

エ 保存処理

県内の遺跡から出土した脆弱な資料について、「埋蔵文化財出土遺物の保存処理」として国庫補助を受け、今年度は、市川橋遺跡、北小松遺跡等出土の井戸枠、建築部材など木製品31点。山畑装飾横穴古墳群等出土の鉄釘、鉄鏃など金属製229点などについて保存処理を行った。

オ 保存環境管理・調査

資料の保存状況及び収蔵庫・展示室の保存環境に関する調査を行い、資料の保全に努めた。また、収蔵庫内の木質から発生する酸・アルカリなどの成分が資料に与える影響について継続的に調査している。このほか、歴史資料の虫ヤカビの被害対策として実態を調査し、個別燻蒸消毒を行った。

また、県内外の諸機関から文化財の保存環境についての問い合わせに対応した。

(5) 震災対応活動

ア 被災文化財の救援活動

当館は、2011年度から継続して石巻文化センターの毛利コレクションや文書資料、民俗資料などを中心に数万点を一時保管している。また、「宮城県被災文化財等保全連絡会議」の運営、被災資料の救出、県内一時保管施設の環境調査、被災館にかわっての資料修理、修理支援など様々な活動を実施した。

① 被災資料の保管・収蔵

被災時以降、破損や雨漏りの進行等で保存環境が悪化していた浮島収蔵庫について、文化庁の補助事業を活用し、屋上防水工事、除湿器用排水ドレン設置工事、機能喪失した器財の廃棄などを実施した。これにより、一時保管の長期化が見込まれる旧石巻文化センター被災資料等を、これまでと比較してより安全に保管できる環境が整備された。

② 被災資料の保全処置

県内被災資料について、劣化の進行抑制のため、脱塩、くん蒸、クリーニングなどの保全処置を行った(南三陸町指定有形民俗文化財志津川民俗資料館収蔵資料、南三陸町波伝谷所有民俗資料、多賀城市寄託紙資料、岩沼市ふるさと展示室所蔵の被災漆製品、石巻市寿福寺資料等)。

③ 被災資料状態調査・方針協議

被災資料・施設について状態調査を行い、今後の方針策定に協力した(岩沼市ふるさと展示室保管資料、亶理町郷土資料館保管資料、宮城県農業高校被災資料等)。

④ 環境調査・整備

県内の被災機関の仮収蔵施設について、現地で収蔵環境等の調査を行った(石巻市仮収蔵庫、榴ヶ岡収蔵庫、涌谷町仮設収蔵庫等)。

⑤ 被災資料の返却等

東北歴史博物館が南三陸町に代わって修理を行った松笠屋敷被災資料(12点)、被災時から現在まで一時保管していた旧石巻文化センター被災資料の一部(545件)、石巻市稲井支所埋蔵文化財資料(57件)等を返却した。

⑥ 情報公開

ホームページにより当館および後述する宮城県被災文化財等保全連絡会議の活動について公開した。また、東京文化財研究所・文化庁主催研究会「これからの文化財防災—災害への備え」で「東日本大震災における宮城県の活動」、「東日本大震災における東北歴史博物館の活動」を展示した。

イ 宮城県被災文化財等保全連絡会議の運営・活動

宮城県被災文化財等保全連絡会議(以下 連絡会議)は、行政や組織の枠組みを超え、文化財レスキュー事業に関係する機関が連携、協働し、被災文化財等の保全管理等を目的として平成23年度10月21日に組織された。連絡会議で当館は代表幹事兼事務局を務めており、調整役として、他館との連携を図りながら、幹事会・全体会の開催、資料保全処置、修理支援、環境調査・整備、研修会開催(被災紙資料の応急処置、文化財保存環境整備)、情報公開等の諸活動にあたった。

ウ 宮城県復興支援調査への協力

宮城県教育委員会文化財保護課が行う東日本大震災に伴う復興支援調査に対して一年間を通し職員が協力にあたった(多賀城市八幡沖遺跡・市川橋遺跡、気仙沼市杉の入貝塚・波路上東館跡・波路上西館跡)。

(参考資料) 第8-12表

平成26年度東北歴史博物館入館者数

月区分	開館日数	入館者数(人)
4月	26	7,635
5月	27	13,169
6月	25	19,986
7月	27	12,548
8月	27	16,772
9月	26	21,156
10月	27	15,796
11月	26	13,855
12月	14	2,199
1月	24	6,067
2月	24	11,805
3月	26	8,204
計	299	149,192

第3節 宮城県多賀城跡調査研究所

多賀城跡は奈良・平安時代に陸奥国の国府が置かれ、奈良時代には鎮守府も併置された役所の跡である。規模は約900m四方で、多賀城市市川のほぼ全域と浮島の一部に及ぶ。また、南東約1.2kmの多賀城市高崎には付属寺院の多賀城廃寺跡がある。これらは大正11年に史跡に指定され、さらに昭和41年には特別史跡に昇格指定された。昭和30年代後半からの急激な諸開発の波は多賀城跡の周辺にも及び、平城宮跡や大宰府跡と並んで国の三大史跡とされる重要な文化遺産である多賀城跡も破壊されてしまう恐れが生じてきた。そこで、宮城県教育委員会は昭和44年4月に宮城県多賀城跡調査研究所を設置し、多賀城跡の解明と保存を目的とする発掘調査、およびその成果に基づく環境整備を計画的に実施することにした。

1 事業内容と目的

当研究所の事業内容と目的は以下のとおりである。

(2) 多賀城跡発掘調査事業

特別史跡多賀城跡附寺跡の発掘調査を実施し、古代の多賀城の実態を解明し、あわせて環境整備のための資料を得る。

(3) 多賀城跡環境整備事業

発掘調査の成果をもとに多賀城跡附寺跡の遺構について、保存措置を講じるのと同時に、復元表示などの環境整備を行い、歴史公園として一般に公開する。

(4) 多賀城関連遺跡発掘調査事業

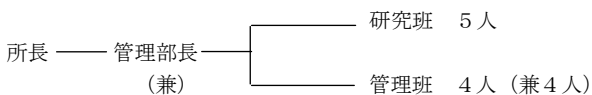
古代の多賀城に関連する県内の遺跡の発掘調査を実施して、多賀城を中心に展開された東北の古代史を多角的に解明する。

(5) 遺構調査研究事業

古代城柵官衙遺跡の資料を全国規模で収集し調査研究する。

2 組織・予算

(1) 組織



なお、当研究所では第8-13表の学識経験者からなる多賀城跡調査研究委員会を組織し、その指導・助言を得ながら各事業の推進を図っている。

第8-13表 多賀城跡調査研究委員会委員名簿

氏名	職	専門分野
委員長 須藤 隆	東北大学名誉教授	考古学
副委員長 佐藤 信	東京大学大学院教授	古代史学
委員 飯淵 康一	宮城学院女子大学特任教授	建築史学
〃 鈴木 三男	東北大学大学院名誉教授	植物学
〃 小野 健吉	奈良文化財研究所副所長	庭園史学
〃 松村 恵司	奈良文化財研究所長	考古学
〃 櫻井 一弥	東北学院大学准教授	建築 デザイン学
〃 進士五十八	東京農業大学名誉教授	造園学
〃 熊谷 公男	東北学院大学教授	古代史学

(2) 予算

ア 多賀城跡発掘調査事業費	9,901千円
イ 多賀城跡環境整備事業費	8,636千円
ウ 多賀城関連遺跡発掘調査事業費	0千円
(以上、50%国庫補助事業)	
エ 遺構調査研究費	114千円
オ 収蔵庫整理事業	1,254千円
カ 発掘資料デジタル化事業	1,075千円
キ 出土遺物修復事業	2,687千円
ク 出土遺物資料集事業	1,075千円
ケ 管理費	302千円

3 平成26年度事業の概要

(1) 多賀城跡発掘調査事業

平成26年度は多賀城跡発掘調査第10次5カ年計画の最終年次にあたり、田屋場地区と坂下地区で第87次調査を行った。調査面積は約910㎡、調査期間は平成26年5月19日～平成26年12月25日である。

田屋場地区の調査は、多賀城市が計画している多賀城南門の建物復元に備えて、復元の対象となる第Ⅱ期南門の規模や構造を再確認すること、及び当地区における第Ⅰ期南門の有無を検討する目的で実施した。その結果、第Ⅱ期南門の規模が従来の推定より大きく、建物の方向も政庁中軸線とほぼ直交することが判明した。また、第Ⅰ期南門は当地区には存在せず、以前に約120m北側で発見された八脚門がそれにあたること、第Ⅱ期になって当地区に南門が移動されたことが明らかになった。

坂下地区の調査は、上記の八脚門に取付く西側の区画施設の検出を目的として実施したが、予想以上に遺構面が深いことが判明したため安全性を考慮し、遺構の検出は断念せざるをえなかった。

(2) 多賀城跡環境整備事業

平成26年度は第9次5カ年計画の最終年次にあたり、政庁地区再整備の一環として、北殿跡について昨年度の基盤整備・修景整備工に引き続き、基壇復元・礎石設置による遺構の平面表示工を実施した。これによって、特別史跡を有効に活用するうえで最重要地区である政庁跡の再整備が完了した。次年度からの第10次5カ年計画では政庁跡と南門跡の間となる政庁南面地区の整備を開始する予定である。

(3) 多賀城関連遺跡発掘調査事業

東日本大震災による県内の復旧事業を優先するため、当面は事業を休止している。

(4) 遺構調査研究事業

今年度の遺構調査研究事業では、特別史跡多賀城跡附寺跡整備基本計画の作成にあたって平城宮の整備基本計画の内容と実態を調査するとともに、奈良文化財研究所に所属する多賀城跡調査研究委員から計画の作成に関する指導・助言を得た。そのほか、政庁跡を再調査中の栗原市伊治城について西脇殿跡に関する調査データを収集・検討した。

(5) 特別史跡多賀城跡附寺跡整備基本計画の作成

本計画は平成23年度に多賀城市教育委員会が策定した特別史跡多賀城跡附寺跡第3次保存管理計画の基本方針に基づき、特別史跡を東北地方の古代史上の貴重な歴史遺産として、また県民憩いの場として整備の基本方針と基本計画を定めるものである。その作成は東日本大震災により中断していたが、昨年度から再開し、同年度の多賀城跡調査研究委員会による方向付けを経て、今年度は整備基本計画(案)を作成した。その内容については今年度の委員会での審議で各委員から大筋で了承を得たが、さらに各委員の意見を反映しつつ検討を重ねており、次年度の策定を目指して作業を進めている。

(6) 収蔵庫整理事業

これまで多賀城跡調査研究所が実施してきた多賀城跡及び関連遺跡の発掘により出土した遺物は、整理箱で総数 20,000 箱超えている。緊急雇用創出事業の一環で、それらを収納している浮島収蔵庫内の整理事業を行った。

(7) 発掘資料デジタル化事業

多賀城跡調査研究所が実施してきた多賀城跡及び関連遺跡の発掘調査で作成した図面類を、緊急雇用創出事業を利用してデジタル化する作業を行った。

(8) 出土遺物修復事業

東日本大震災で被災した収蔵庫内の出土遺物について緊急雇用創出事業を利用して修復作業を実施した。

(9) 出土遺物資料集成年事業

多賀城跡と関連遺跡の発掘調査で出土した遺物には様々なものがあるが、それらを種類ごとに集成・整理する作業を緊急雇用創出事業の一環として行った。

(10) 特別史跡多賀城跡附寺跡の現状変更申請への対応

当研究所では、特別史跡内の遺構と歴史的景観の保護に努めているが、やむなく特別史跡内の現状を変更するにあたっては、申請者及び関係機関と遺跡保護のために慎重な協議を行い、遺跡に影響がない範囲で最小限の現状変更に伴う調査を行っている。

平成 26 年度の現状変更申請は下水道管敷設工事が 2 件、擁壁設置工事が 1 件で、いずれも史跡の環境整備、史跡内における生活上の必要性からやむをえないものである。史跡への影響も軽微と判断されたことから工事立ち合いによる対応としたが、事業者の都合により下水道管敷設工事 1 件以外は未着手であり、次年度の対応となる。

(11) その他

ア 震災復旧事業に伴う発掘調査の支援

県内各地域の早期復興を目指して災害復旧事業に伴う発掘調査の支援に職員 2 名を常時派遣した。

イ 現地説明会の開催

発掘調査の成果を一般の方々に公開するために、下記の現地説明会を開催した。

多賀城跡第 87 次調査現地説明会 平成 26 年 11 月 8 日

吉野 武・三好秀樹

ウ 各委員会などへの協力

山田晃弘 多賀城市文化財保護委員会委員
史跡伊治城跡調査整備指導委員会委員
亙理町三十三間堂官衙遺跡調査検討委員会委員
角田市角田郡山遺跡発掘調査指導委員会委員
第 41 回古代城柵官衙遺跡検討会代表世話人
秋田県弘田柵跡保存管理計画策定指導委員
秋田市秋田城跡環境整備指導委員会委員
盛岡市志波城跡史跡整備委員会委員

山田晃弘・吉野 武・三好秀樹
多賀城南門等復元整備検討委員会議

吉野 武 国立歴史民俗博物館共同研究員

エ 講演会・研究会への協力・執筆など

高橋 透「多賀城跡第 86 次調査」

平成 25 年度多賀城市遺跡調査報告会

多賀城市文化センター 平成 26 年 7 月 12 日

吉野 武「宮城・多賀城跡」『木簡研究』第 36 号

平成 26 年 11 月 25 日

三好秀樹「多賀城跡第 87 次調査（南門地区）の概要」

平成 26 年度宮城県遺跡調査成果発表会

東北歴史博物館 平成 26 年 12 月 13 日

三好秀樹「名城データファイル 多賀城を歩く」

『週刊日本の城』No.99 平成 26 年 12 月 16 日

吉野 武「日の出山窯跡群の瓦陶工房」

窯跡研究会第 12 回研究会 多賀城市市民活動

サポートセンター 平成 26 年 12 月 20 日

吉野 武「多賀城創建期の瓦窯跡」

国立歴史民俗博物館基幹研究「古代地域社会
の実像」第 4 回研究会

国立歴史民俗博物館 平成 27 年 2 月 7 日

三好秀樹「多賀城跡第 87 次調査（南門地区）の概要」

第 41 回古代城柵官衙遺跡検討会成果報告

東北歴史博物館 平成 27 年 2 月 28 日

廣谷和也・初鹿野博之「熊の作遺跡と亙理郡南部の諸郡」

第 41 回古代城柵官衙遺跡検討会特集報告

東北歴史博物館 平成 27 年 3 月 1 日

吉野 武「多賀城と陸奥国南部の諸郡」

第 41 回古代城柵官衙遺跡検討会特集報告

東北歴史博物館 平成 27 年 3 月 1 日

吉野 武「熊の作遺跡出土の木簡と墨書土器」

第 41 回古代城柵官衙遺跡検討会コメント

東北歴史博物館 平成 27 年 3 月 1 日

オ 連携大学院

山田晃弘（客員教授）

文化財科学研究演習 I 「多賀城跡の研究の現状と整備」

山田晃弘（客員教授）・吉野 武（客員准教授）

文化財科学研究実習 I 「古代遺跡調査の方法と実践」

カ 研究成果刊行物

『宮城県多賀城跡調査研究所年報 2014 多賀城跡』

平成 27 年 3 月 26 日